

ストーリー

真っ直ぐに伸びるトンネルの、遙か向こうのかすかな光。それは、明治期に成し遂げられた奇跡の光でした。今も京都に「命の水」を運び続ける琵琶湖疏水は、歴史の偉業を語り続けるトンネルを抜け、桜や新緑、紅葉に彩られる山裾を縫って、ゆるやかに進みます。約70年の時を経て復活した遊覧船「びわ湖疏水船」に乗り、疏水沿いを歩くことで触れられるのは、明治の偉業から生まれた、京都と大津の知られざる魅力です。



「びわ湖疏水船」の遊覧

① 京都と大津を繋ぐ「希望の水路」

千年以上にわたって日本の首都であった京都は、幕末の争いで市街地が焦土と化し、明治維新の東京遷都（新たに都を定めること）によって、人口が約3分の1も減少し、「いずれ狐や狸の棲家になる」といわれました。しかし、人々はただ嘆いたのではなく、京都と大津を結ぶ「希望の水路」琵琶湖疏水の建設に、まちの再生の望みを託しました。

第3代京都府知事の北垣国道の下、当時の京都府の予算の2年分もの莫大な工事費を要する前代未聞の大事業が始めされました。



四季折々の表情を見せる琵琶湖疏水

工事は、工部大学校（現在の東京大学工学部）を卒業して間もない田邊朔郎（当時24歳）を工事の主任技師に、欧米の先進の測量術で実績を積んでいた島田道生（当時36歳）を測量主任とする青年コンビによる布陣で、明治18（1885）年に着工しました。

当時の土木技術は現在と比べると未発達であり、機械や材料も貧弱でした。大半の資材を自給自足で貰い、夜には技術者を養成し、昼にはそれを実践するという、現在ではおよそ想像もつかない努力の積み重ねとなりました。また、トンネルを掘り進む中で湧き出る大量の地下水にも悩まされました。

延べ400万人の作業員を動員し、約5年に及ぶ難工事の末、明治23（1890）年に、第1疏水が完成しました。日本で初めて、日本人のみの手によって成し遂げた大土木事業でした。



トンネルの扁額は揮ごう者の想いを語る
(左)伊藤博文、(右)山縣有朋

第1疏水によって、京都のまちは、復興の道を力強く歩み始めました。今でも、「びわ湖疏水船」に乗り、疏水沿いを歩くと、各所のトンネルに、当時の有力政治家たちの揮ごうによる扁額を目に入れます。扁額の石に彫り込まれた文字は、琵琶湖疏水が日本における一大プロジェクトであったことを私たちに語りかけています。

② くらしとまちを大きく発展させた水力発電

第1疏水から送られる水は、水車動力や舟運、かんがい、防火、庭園用水など、多くの目的に利用されましたが、最も人々のくらしを変えたのは、当時の最先端技術であった水力発電でした。

当初、琵琶湖疏水は水車の動力に用いる計画でしたが、工事の途中、田邊朔郎は、実業家の高木文平とともにアメリカへ水力利用の視察に赴きました。二人は、コロラド州アスペンの水力発電を視察する中で、大きなひらめきを得ました。帰国後、田邊朔郎は北垣知事を懸命に説得し、工事の途中で、水力発電の実用化に踏み切ったのです。明治24（1891）年に蹴上で日本最初の一般供給用水力発電所が稼働すると、まちに電気が送られ、電灯を灯し、機械を動かす動力に利用されました。

水力を利用した低廉豊富な電力によって、京都の中小工場の機械化が大いに進んだほか、日本初となる電気鉄道の営業がスタートしました。



まちの発展を支えた
第2期蹴上発電所

電力の需要は増大の一途をたどり、京都の経済や産業を発展させ、産業の振興は、その後の工学、科学発展の礎となりました。また、医療や娯楽にも電気が活用され、人々の生活文化の向上に大きく貢献しました。

電力出力の増強のために建設された第2期蹴上発電所は、現在も蹴上に残っており、京都のくらしとまちを大きく発展させた多大な功績を今に伝えています。

③ 琵琶湖から大阪までを繋いだ舟運

第1疏水から淀川に至ることで、大津から京都を経て大阪までの舟運が開き、物流の拡大によって、経済と産業の更なる発展に繋がりました。運輸に加え、舟の遊覧の名所としても脚光を浴びました。

その後、舟運は、陸上交通の発達によって途絶えましたが、平成30（2018）年に、約70年ぶりに、観光船として復活しました。この「びわ湖疏水船」は、大津から蹴上までの第1疏水をたおやかに進み、舟に乗ることで、琵琶湖疏水の魅力を感じられます。



旧御所水道ポンプ室



無鄰菴の庭園

④ 防火用水と日本屈指の近代庭園群

琵琶湖疏水の水は、東本願寺や京都御所などの施設を守る防火用水としても活用されました。疏水沿いに建つ旧御所水道ポンプ室は、かつて京都御所を火災から守るための施設として使われ、今でもその重厚感ある意匠を見ることができます。

また、琵琶湖疏水の水によって、岡崎地域には、文化的景観が形成されました。近代における最高峰の作庭家 七代目植治こと小川治兵衛の手で、疏水の水を利用した庭園が作られ、日本屈指の近代庭園群を開花させたのです。第3・9代内閣総理大臣 山縣有朋が京都の居所として活用した無鄰菴は、明治期を代表する庭園です。平安神宮神苑の池には、琵琶湖の水が流れ込むことにより、本来は、琵琶湖で生息しているものの、環境の変化によって、確認が困難となっている絶滅危惧種のイチモンジタナゴが生息しています。

これらの庭園群を訪れることで、当時から培われている奥深い庭園文化に触れることができます。

⑤ 蹴上浄水場からの安全・安心な水道水の供給

第2代京都市長の西郷菊次郎のときに進められた「京都市三大事業」の一環として、第2疏水が、明治45（1913）年に完成しました。更に豊富な水が琵琶湖から京都へ送られるようになり、その水資源を利用して、蹴上浄水場から、日本初の「急速ろ過」方式による水道水の供給が始まりました。

琵琶湖疏水の発展の歴史の上に成り立つ水道・下水道は、今も休むことなく、くらしを守り、京都の経済や産業、文化など、まちの活動を支えています。京都の食文化も水道・下水道によって支えられています。

京都の水道事業の発祥となった蹴上浄水場では、毎年、施設の一般公開を行っており、「つつじの名所」としても親しまれています。



蹴上浄水場
第1高区配水池



約4,800本のつつじが咲き誇る

⑥ 時を超えて今も生き続ける琵琶湖疏水

琵琶湖疏水は、我が国の近代化を伝える貴重な産業遺産であり、琵琶湖疏水がなければ、今の京都のまちの姿は成り立ちませんでした。現在、琵琶湖疏水は、水道用水、発電用水、かんがい用水、工業用水を供給するなど、様々な都市活動を支える重要な都市基盤施設です。

琵琶湖疏水は住民のくらしの一部であり、地域に親しまれ、地域ぐるみで魅力の向上に取り組まれています。「びわ湖疏水船」の乗客と疏水沿線を歩く地域の人々が、手を振って挨拶を交わす様子も多く見られます。子どもたちは、授業で琵琶湖疏水について学び、疏水沿いを歩く体験学習も行われています。

また、南禅寺船溜のほとりにある琵琶湖疏水記念館は、琵琶湖疏水に関して、総合的に情報発信する拠点です。同館では、疏水建設に関わる当時の様々な資料や実物を数多く展示し、琵琶湖疏水の歴史や役割について、楽しみながら学ぶことができます。

京都を再生と飛躍に導き、現在のまちの姿を形づくった琵琶湖疏水は、今も京都と大津を繋ぎ、まちとくらしを潤し続けています。琵琶湖疏水の穏やかな水の流れを「びわ湖疏水船」で遊覧し、四季折々の姿を見せる疏水の沿線や施設を歩くことで、明治の時代に、まちの再生の願いを託し、逆境と苦難を乗り越えた、この壮大な事業が、時を超えて今に息づいていることを、感じができるでしょう。



琵琶湖疏水記念館

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	琵琶湖築地 びわこつきじ	未指定 (史跡・建造物)	琵琶湖から第1疏水への入口である。第1築地と第2築地がある。第1疏水の起工に先立ち、明治14(1881)年8月に量水標が設置され、琵琶湖の水位観測を開始した。また、旧制第三高校(現京都大学)水上部(現ボート部)発祥の地であり、「琵琶湖周航の歌」の歌碑が建立されている。琵琶湖と琵琶湖疏水を結ぶ場所であり、日本遺産のストーリーの始まりの部分である。	大津市
②	だい1そすいこうすいこう 第1疏水取水口	未指定 (史跡・建造物)	琵琶湖から第1疏水へ水を取り入れるための取水口である。琵琶湖疏水の起点ともいべき箇所であり、疏水沿線から見ることができる。	大津市
③	おおつこうもん 大津閘門	未指定 (史跡・建造物)	琵琶湖の水位は、疏水路の水位よりも高い。大津閘門は、琵琶湖と疏水路を舟が行き来するときに、水門を開閉し、琵琶湖と疏水路の水位差を調整し、舟を通す役割を果たしている。閘室など重要な部分に石材が用いられている他は、レンガで築かれており、使用したレンガは約60万本に達する。明治期の現存するレンガ造りの近代閘門としては、石井閘門(宮城県、重要文化財)が最古のものとして知られているが、大津閘門はそれに次ぐ近代閘門として注目される。現在は、年数回程度、「びわ湖疏水船」の運航シーズンの開始時と終了時に、舟を通過させるため、閘門を開閉している。その様子は、疏水沿線からも眺めることができ、水門を通じて水が流れ込む様子	大津市

			は、知られざる見どころといえる。	
④	第一トンネル入口 だいいち とんねる いりぐち	国指定史跡	第1トンネルは、日本で初めて堅坑方式で造られた全長2,436mのトンネルである。トンネル上部には、伊藤博文の揮ごうによる「氣象萬千(きしようばんせん)」の扁額がある。「氣象萬千」とは、「様々に変化する風光は素晴らしい」という意味で、出典は北宋・范仲淹「岳陽樓記」である。また、扁額の上に英語で田邊朔郎を称えた銘文がある。「びわ湖疏水船」の乗下船場の近くにあり、舟の乗下船時に間近で見ることができる。	大津市
⑤	第二疏水取水口と洞門 だいにそすいしゅすいこう どうもん	未指定 (史跡・建造物)	水及び電力需要の増加に伴い、全線地下トンネルを敷設した第2疏水の取水口である。 <small>くにのみやくによしおう</small> 久邇宮邦彥王(皇族)の揮ごうによる「萬物資始(ばんぶつとりてはじむ)」の扁額がある。「萬物資始」とは、「すべてのことがこれによって始まる」という意味で、出典は、 <small>ゑききょうこう</small> 易經「乾為天」である。	大津市
⑥	第一堅坑 だいいち かたこう	国指定史跡	第1疏水にある堅坑である。深さは約47mあり、第1トンネルを掘るために、山の両側から掘り進むほか、山上から垂直に穴を掘り、そこからも両側に掘り進めて工期を早める「堅坑方式」を日本で初めて採用した。「びわ湖疏水船」の乗船中、第1堅坑の下を通過する際に、堅坑内部を見ることができる。堅坑内部の壁から涌き出た多くの地下水が舟の屋根を打ち付ける様子を体感できる。	大津市
⑦	第二堅坑 だいに かたこう	国指定史跡	第1疏水にある堅坑である。第2堅坑は、採光や換気のために造られた。	大津市
⑧	第一トンネル出口 だいいち とんねる でぐち	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。山縣有朋の揮ごうによる「廓其有容(かくとしてそれいるることあり)」の扁額がある。「廓其有容」とは、「疏水をたた	大津市

			えて悠然と広がる大地は、すべてを受け容れる器を有している」という意味で、出典は、韓愈「送李愿歸盤谷序」である。	
⑨	ふじおほし 藤尾橋	未指定 (史跡・建造物)	第1疏水に架かる橋である。当時のレンガと石造りの土台が残っている。	大津市
⑩	やましなそぞい 山科疏水	未指定 (史跡・建造物)	<p>第1トンネル出口を出てから日ノ岡まで全長約4kmの区間の総称である。</p> <p>山科疏水は、沿線を歩くことができ、疏水関連施設のほか、寺院などが点在しており、見どころが多い。また、春の桜、夏の青葉、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季折々の様相を見せ、山科地域における主要な観光スポットとなっている。</p> <p>山科疏水沿いを歩く地域住民が、「びわ湖疏水船」の乗客に手を振る様子も見受けられる。</p>	京都市
⑪	ひがしやまし ぜんりょくち 東山自然緑地	未指定 (名勝)	山科疏水沿線に整備された都市公園である。シカやイノシシ、アオサギの姿が見られるなど、豊かな自然に囲まれ、たおやかな水の流れと穏やかな時の流れに包まれながら、散策できる。また、地域の人々の憩いの場所ともなっている。	京都市
⑫	し の みやふなだまり 四ノ宮船溜	未指定 (史跡・建造物)	<p>四ノ宮にある船溜である。水路の幅を広げて停船場を設け、荷物の積み下ろしや船頭たちの休憩場所として利用されていた。</p> <p>「びわ湖疏水船」における乗下船場の一つとなっている。</p>	京都市
⑬	あんじょうじふなだまり 安祥寺船溜	未指定 (史跡・建造物)	安祥寺付近にある船溜である。水路の幅を広げて停船場を設け、荷物の積み下ろしや船頭たちの休憩場所として利用されていた。琵琶湖疏水沿線や「びわ湖疏水船」の舟から間近に見ることができる。	京都市
⑭	れんがこうじょうあと 煉瓦工場跡	未指定 (史跡)	第1疏水の建設に必要なレンガを製	京都市

			造ていた工場跡地である。琵琶湖疏水で使用されたレンガのほとんどは、ここで生産された。現在は、記念碑と解説板が設置されており、地下鉄御陵駅で見ることができる。	
⑯	やま の なにはし 山ノ谷橋	国指定史跡	第1疏水に架かる橋であり、第1.1号橋の実績を活かして建設された鉄筋コンクリート橋である。	京都市
⑯	だい 2 と ン め る いりぐち 第2トンネル入口	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。第2トンネルは、水路上で最も短く、約124mである。 井上馨の揮ごうによる「仁以山悦智為水歛（じんはやまをもってよろこび、ちはみづのためによろこぶ）」の扁額がある。「仁者は動かない山によろこび、智者は流れゆく水によろこぶ」という意味である。	京都市
⑰	だい 2 と ン め る でぐち 第2トンネル出口	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。 西郷従道の揮ごうによる「隨山到水源（やまにしたがいて、すいげんにいたる）」の扁額がある。「隨山到水源」とは、「山にそって行くと水源にたどりつく」という意味であり、出典は、唐・劉長卿「尋南溪常山道人隱居」である。また、このトンネルは、馬蹄型の出入口が特徴的である。	京都市
⑱	ひ の おかだい 1 1 ごうきょう 日ノ岡第11号橋	国指定史跡	第1疏水に架かる橋である。 日本初の鉄筋コンクリート橋とされている。「びわ湖疏水船」から間近に見ることができる。	京都市
⑲	だい 3 と ン め る いりぐち 第3トンネル入口	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。山科から蹴上に抜ける第3トンネルは、延長約850mである。 松方正義の揮ごうによる「過雨看松色（かうしようしょくをみる）」の扁額がある。「過雨看松色」とは、「時雨が過ぎると鮮やかな松の緑を見ることができる」という意味で、出典は、唐・劉長卿「尋南溪常山道人隱居」である。	京都市

㉚	第3トンネル出口 だいさん トンネル でぐち	国指定史跡 こくしてい ししつ	<p>第1疏水のトンネルである。</p> <p>三条実美の揮ごうによる「美哉山河（うるわしきかなさんが）」の扁額がある。「美哉山河」とは、「なんと美しい山河であることよ」の意味で、出典は、司馬遷「史記」孫子吳起列伝である。「びわ湖疏水船」の乗下船場の近くにあり、舟の乗下船時に間近で見ることができる。</p>	京都市
㉛	旧御所水道ポンプ室 きゅうごしょすいどうほんぷしつ	国重要文化的景観 こくじょうぶつせいけいがん	<p>第1疏水から大日山貯水池に水を上げるポンプを据え付けた建物である。かつて、御所水道として、京都御所に防火用水を送水していた。宮内省内匠寮の設計で、片山東熊、山本直三郎が担当した。円柱付きバルコニーなどを備えた重厚感ある意匠に仕上げている。</p> <p>「びわ湖疏水船」の乗下船場のすぐそばにあり、舟の乗下船時に間近で見ることができる。また、付近の大神宮橋からも眺めることができる。</p> <p>なお、国の文化審議会は、令和元年1月15日開催の同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、旧御所水道ポンプ室を国登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申を行った。今後、官報告示を経て、正式に登録される予定である。</p>	京都市
㉜	蹴上船溜 けあげふなだまり	国重要文化的景観 こくじょうぶつせいけいがん	<p>蹴上にある船溜である。停船場として、荷物の積み下ろしや船頭たちの休憩場所として利用されていた。</p> <p>蹴上船溜は、蹴上インクラインの上流に位置し、第1疏水と第2疏水の合流点となっている。</p> <p>「びわ湖疏水船」における乗下船場の一つとなっている。</p>	京都市
㉝	蹴上インクライン けあげ いんくらいん	国指定史跡 こくしてい ししつ 国重要文化的景観 こくじょうぶつせいけいがん	<p>疏水上流の蹴上船溜と下流の南禅寺船溜を結んだ全長約582mの傾斜鉄道で、建設当時世界最長であった。約36mの高低差を克服するために</p>	京都市

			舟を台車に乗せ、ケーブルカーと同じ原理で運んだ。インクラインによつて、舟は貨物の積み下ろしをせずに、高低差を乗り切ることができた。現在は、レールが形態保存されている。インクラインの中は自由に歩くことができ、観光名所としても親しまれている。春には、インクライン両側の桜が咲き誇り、華麗な様相を見せる。	
㉔	ねじりまんぽ	国指定史跡 国重要 文化的景観	蹴上インクラインの下を横断するためのトンネルである。らせん状にレンガが積まれており、渦を巻いているように見える。北垣国道の揮ごうによる「陽気発処（ようきはつするところ）」、「雄観奇想（ゆうかんきそう）」の扁額がある。「陽気発処」とは、「集中して物事に挑めば何事でも成し遂げられる」という意味で、出典は、朱熹「朱子語類」である。「雄観奇想」とは、「見事なながめとすぐれた考え方である」という意味である。ねじりまんぽのレンガのトンネルを歩いて通行することができ、明治時代の空気に触れることができる。	京都市
㉕	蹴上発電所	国近代化 産業遺産 国重要 文化的景観	琵琶湖疏水を利用した日本初の一般供給用水力発電所「(第1期)蹴上発電所」は、明治24(1891)年に運転を開始した。第1疏水の建設において、当時最先端の水力発電の導入に舵を切ったことが、事業が成功する大きな要因となった。 蹴上発電所において発電した電気が京都の街灯や工業用電力、日本で初めて営業を開始した電気鉄道(京都電気鉄道)に使われるなど、京都ひいては日本の産業の近代化に貢献した。 現在、明治45年2月に完成した第2期蹴上発電所の建物が保存されており、関西電力㈱によって、定期的に見学会が行われている。現行の第3期蹴	京都市

			<p>上発電所は、現在も水力発電を行っている。</p> <p>蹴上発電所は、平成28年度に、世界的な電気・電子技術の専門家組織であるIEEより、「IEEマイルストーン」に認定された。</p>	
㉖	<p>蹴上浄水場 第1高区配水池</p> <p>けあげじょうすいじょう だい1こうくはいすいち</p>	国近代化 産業遺産	<p>蹴上浄水場建設当初（明治45年）に造られたレンガ造りの配水池である。蹴上浄水場には、約4,800本のつづじが植栽されている。毎年、蹴上浄水場の一般公開を行っており、多くの方に「蹴上のつづじ」として親しまれている。一般公開の折には、第1高区配水池を間近で見ることができる。</p>	京都市
㉗	<p>鴨東運河</p> <p>おうとううんが</p>	国重要 文化的景観	<p>山科運河と鴨川運河を結ぶ運河である。鴨東運河の付近には、明治28（1895）年に創建された平安神宮や、夷川発電所がある。</p> <p>沿線を歩くことができ、当時の様子に触れることができる。</p>	京都市
㉘	<p>南禅寺船溜</p> <p>なんぜんじふなだまり</p>	国重要 文化的景観	<p>南禅寺付近にある船溜である。停船場として、荷物の積み下ろしや船頭たちの休憩場所として利用されていた。</p> <p>南禅寺船溜は、蹴上インクラインの下流に位置し、鴨東運河の起点となっている。現在は、中央に、インクラインの高低差を利用した大きな噴水がある。</p>	京都市
㉙	<p>北垣国道像及び 田邊朔郎像</p> <p>きたがきくにみちぞうおよ たなべさくろうぞう</p>	未指定	<p>琵琶湖疏水完成に重要な役割を果たした二人の功績を讃えて設置された像である。</p>	京都市
㉚	<p>疏水工事殉職者弔魂碑 及び殉職者之碑</p> <p>そすいこうじじゆんしょくしきしゃのひ およじゆんしょくしきしゃのひ</p>	未指定 (史跡)	<p>疏水建設工事で殉職した人々の慰靈碑である。弔魂碑は、明治35（1902）年に田邊朔郎が私費で建立し、背面には殉職者17人の氏名が刻んである。殉職者之碑は、昭和16（1941）年に疏水事業を所管していた京都市電気局の職員が建立したものである。</p>	京都市

㉑	疏水合流トンネル すいごうりゅうとんねる	未指定 (史跡)	琵琶湖疏水の合流点付近にあるトンネルである。田邊朔郎の揮ごうによる「藉水利資人工(すいりをかりてじんこうをたすく)」の扁額がある。「藉水利資人工」とは、「自然の水の力を人間の仕事に役立てる」という意味で、第1疏水竣工時の明治天皇の勅語からとられたものである。	京都市
㉒	水路閣 すいろかく	国指定史跡 国重要 文化的景観	南禅寺境内にある琵琶湖疏水の水路橋である。境内の景観に配慮し、田邊朔郎が設計・デザインを行った。レンガ、花崗岩造りのアーチ型の橋脚である。水路閣は、有名な観光スポットとして、多くの観光客が訪れている。レンガのアーチを間近に見ることができると、上部の水路に水が流れる様子も見ることができる。	京都市
㉓	京都市動物園 きょうとじどうぶつえん	国重要 文化的景観	明治36(1903)年に開園した日本で2番目の動物園である。園内に琵琶湖疏水を引水し、動物の飼育や噴水等に利用している。	京都市
㉔	琵琶湖疏水記念館 しづちうしきねいかん 所蔵資料	未指定 (歴史資料)	琵琶湖疏水記念館は、琵琶湖疏水竣工100周年を記念し、平成元年に開館した施設であり、琵琶湖疏水の情報発信の拠点である。 琵琶湖疏水記念館では、第1疏水建設工事の技術責任者であった田邊朔郎が遺した田邊家資料など、琵琶湖疏水に関する重要な資料や実物を約23,000点保管しており、常設展や特別展で展示している。 琵琶湖疏水記念館は、平成31年3月に、開館30周年を記念してリニューアルオープンし、子どもから大人まで、市民・観光客など幅広い方々に楽しみながら学んでいただけるよう展示内容を刷新した。	京都市
㉕	蹴上インクライン あがね ドラム工場 こうじょう	未指定 (史跡)	蹴上インクライン上の台車に接続したワイヤーロープを巻き上げるワインチの操作室であった施設である。	京都市

			琵琶湖疏水記念館において、見学することができる。	
⑯	京都市営電車の車両と敷石	未指定 (美術工芸品・史跡)	明治28(1895)年、琵琶湖疏水による水力発電によって、京都電気鉄道株式会社(京電)が営業を開始し、京都に日本初の路面電車が誕生し、蹴上インクラインまで開通していた。その後、京都市営電車(市電)が買収し、その車両も譲渡された。大正中期から昭和初期まで、市内交通の中心を担っていたが、昭和53(1978)年に廃止された。平安神宮には、狭軌I型(旧京電)の車両が原型のまま保存されており、見学することができる。また、市電の敷石(御影石)も、哲学の道などの石畳として使われており、歩くことができる。	京都市
⑰	岡崎地域の庭園群	一部が国名勝、市名勝、国重要文化的景観、その他は未指定	南禅寺の塔頭跡地に、近代最高峰の作庭家7代目小川治兵衛(植治)の活躍もあり、疏水の水を利用した近代庭園群が形成された。山縣有朋の別邸である無鄰菴や平安神宮の神苑などがある。琵琶湖の水が流れ込むことにより、平安神宮神苑の池には、本来、琵琶湖で生息しているが、環境の変化により確認が困難となっている絶滅危惧種のイチモンジタナゴが生息している。	京都市
⑱	疏水分線	国重要文化的景観	沿線各地への水力利用、灌漑用水、防火用水の供給を目的に設置された施設である。熊野若王子神社から銀閣寺に至る疏水分線沿いの遊歩道は、京都大学の哲学者西田幾多郎らが思索にふけったとされることにちなみ、「哲学の道」と呼ばれている。	京都市
⑲	鴨川運河	未指定 (史跡・建造物)	第1疏水のうち、鴨東運河の鴨川合流点から伏見区堀詰町までの全長約9kmの運河である。大津から大阪までの舟運を開通するうえで、疏水を淀川に接続するための重要な区間となっ	京都市

			た。特徴ある多くの橋が架かっている。鴨川運河沿いを歩くことができ、春には桜を愛でることもできる。 鴨川運河付近には、伏見稻荷大社や墨染発電所がある。	
⑩	扁額	一部が未指定、 その他は 国指定史跡	第1疏水のトンネルなどに設置されている明治の元勲をはじめとする先人たちの揮ごうで、石に文字を彫り込んだ額である。大津側は文字を掘り下げた陰刻、京都側は文字が浮き出る陽刻にされており、デザインにも趣向が凝らされている。揮ごう文は、中国の古典などから引用され琵琶湖疏水の完成を称えている。琵琶湖疏水沿線や「びわ湖疏水船」の舟から見ることができる。	京都市 大津市

構成文化財の写真一覧

①琵琶湖築地



④第1トンネル入口



②第1疏水取水口



⑤第2疏水取水口と洞門



③大津閘門



⑥第1豎坑



⑦第2堅坑



⑩山科疏水



⑧第1トンネル出口



⑪東山自然緑地



⑨藤尾橋



⑫四ノ宮船溜



⑬安祥寺船溜



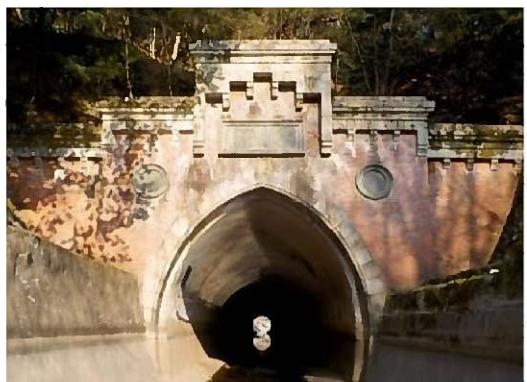
⑯第2トンネル入口



⑭煉瓦工場跡



⑯第2トンネル出口



⑮山ノ谷橋



⑰日ノ岡第11号橋



⑯第3トンネル入口



⑰船上船溜



⑯第3トンネル出口



⑰船上インクライン



⑱旧御所水道ポンプ室



⑲ねじりまんば



㉕蹴上発電所



㉖南禅寺船溜



㉗蹴上浄水場第1高区配水池



㉘北垣国道像 (左) 及び田邊朔郎像 (右)



㉙鴨東運河



㉚疏水工事殉職者弔魂碑 (左)
及び殉職者之碑 (右)



③①疏水合流トンネル



③④琵琶湖疏水記念館所蔵資料



③②水路閣



③⑤蹴上インクラインドラム工場



③③京都市動物園



③⑥京都市営電車の車両と敷石



③⑧疏水分線



③⑨鴨川運河



③⑦岡崎地域の庭園群



④⑩扁額（※各所に点在）



(第1トンネル入口)



(第2疏水取水口)



(第1トンネル内壁)



(疏水合流トンネル)



(第1トンネル出口)



(ねじりまんぽ東口)



(第2トンネル入口)



(ねじりまんぽ西口)



(第2トンネル出口)



(第2期蹴上発電所)



(第3トンネル入口)



(扇ダム放水路出口)



(第3トンネル出口)

構成文化財の位置図（地図等）

